
地域で活動する高校生を支える“伴走者” が大切にしている3つのポイント

ワークショップデザイナー
相内 洋輔

1. 自己紹介
2. 高校生の地域活動を支える事業
3. 活動を支える伴走者が大切にしていること
4. 高校生の地域活動を促進する取組み
5. 質疑応答

はじめに

私は人が自由に自分の意図に沿って前進できる世界
を実現したいと思っています。

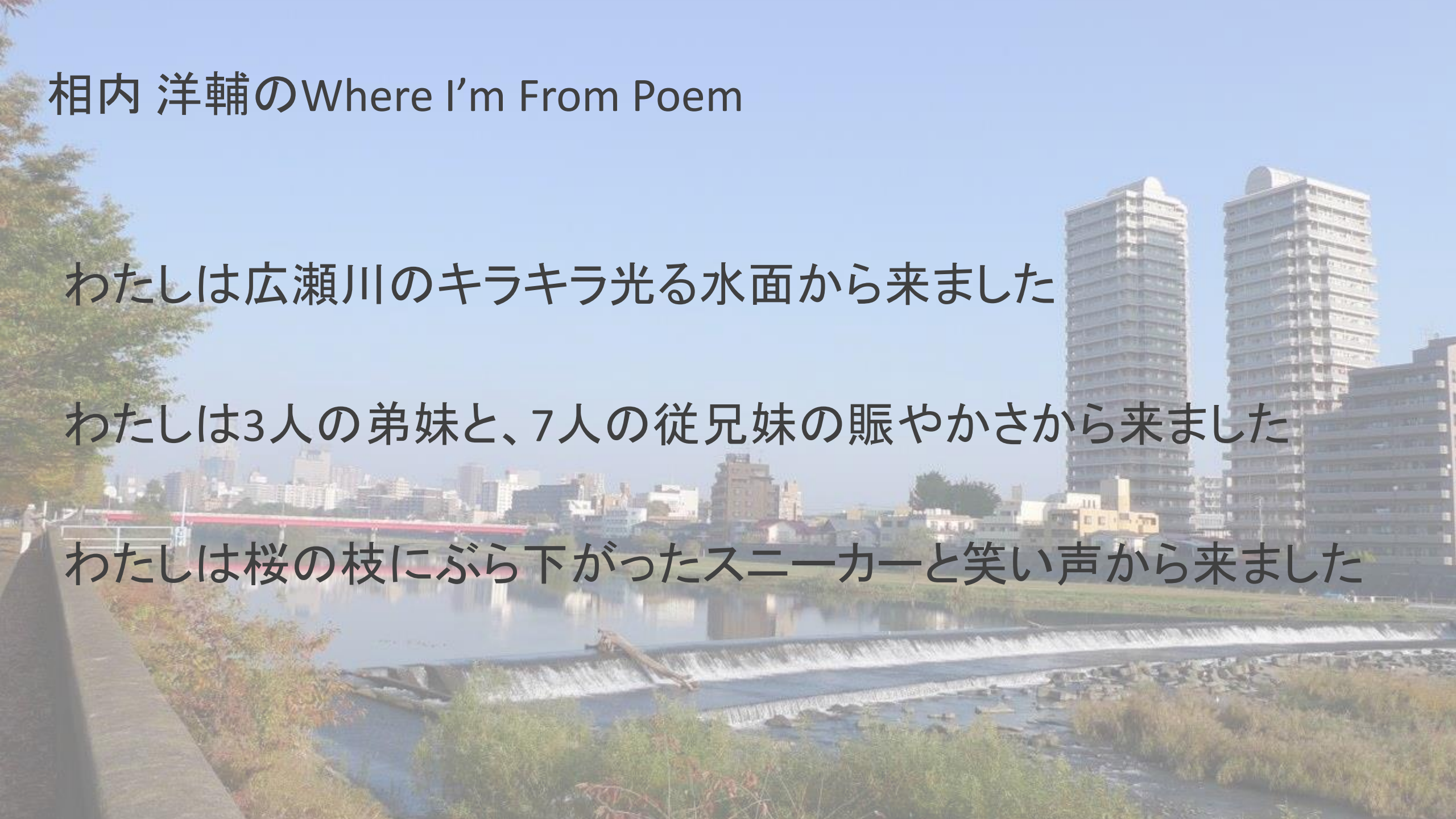
そのためにワークショップや講演などを通じて、
自分の意志で動くとどれだけ面白いか、
どんな風に世界が変わるかを伝えています！

相内 洋輔のWhere I'm From Poem

わたしは広瀬川のキラキラ光る水面から来ました

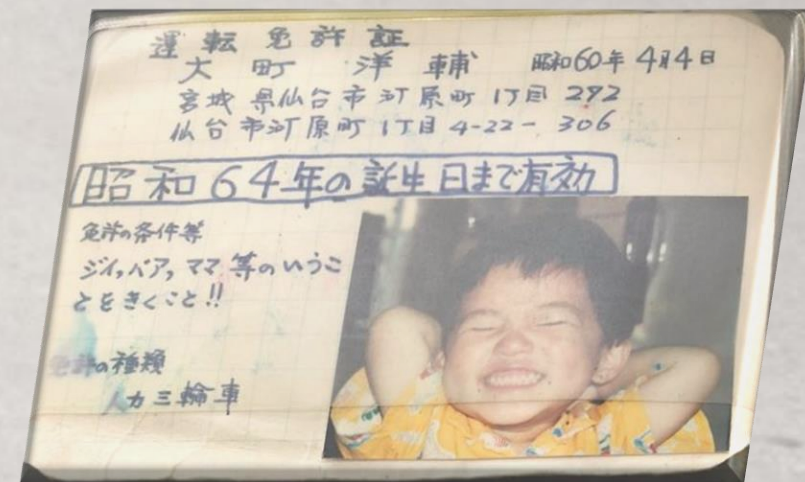
わたしは3人の弟妹と、7人の従兄妹の賑やかさから来ました

わたしは桜の枝にぶら下がったスニーカーと笑い声から来ました



わたしは父が作ってくれた免許証から来ました

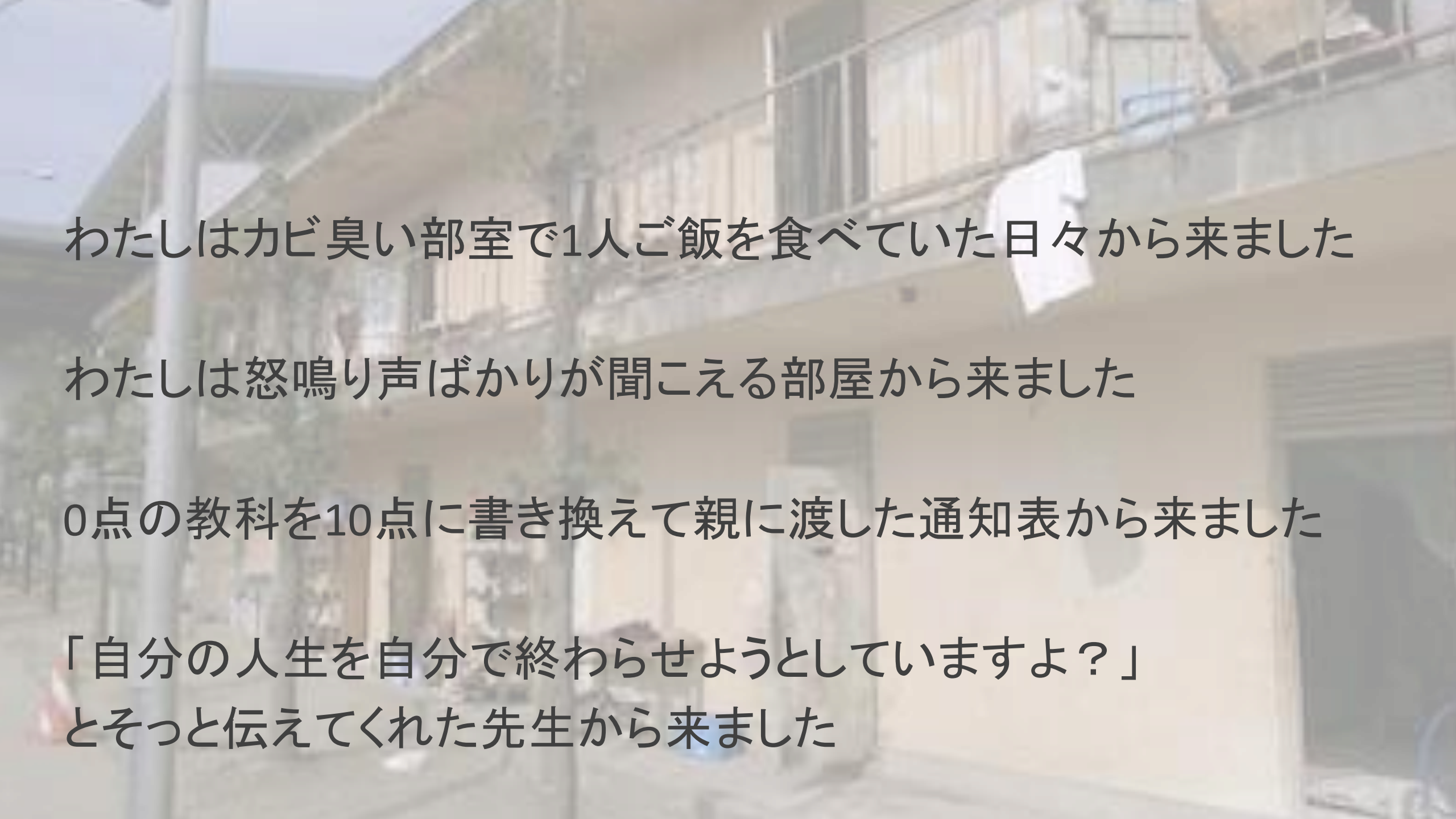
わたしは店先の花の彩りや香りから来ました



わたしはスポットライトに照らされ主役を演じた舞台から来ました

わたしはびくびくしながらも自分の意見を曲げなかった校庭から
来ました





わたしはカビ臭い部室で1人ご飯を食べていた日々から来ました

わたしは怒鳴り声ばかりが聞こえる部屋から来ました

0点の教科を10点に書き換えて親に渡した通知表から来ました

「自分の人生を自分で終わらせようとしていますよ？」

とそっと伝えてくれた先生から来ました

わたしは握った拳が震えていたあの夜から来ました

わたしは蔵王の山に響く笑い声から来ました

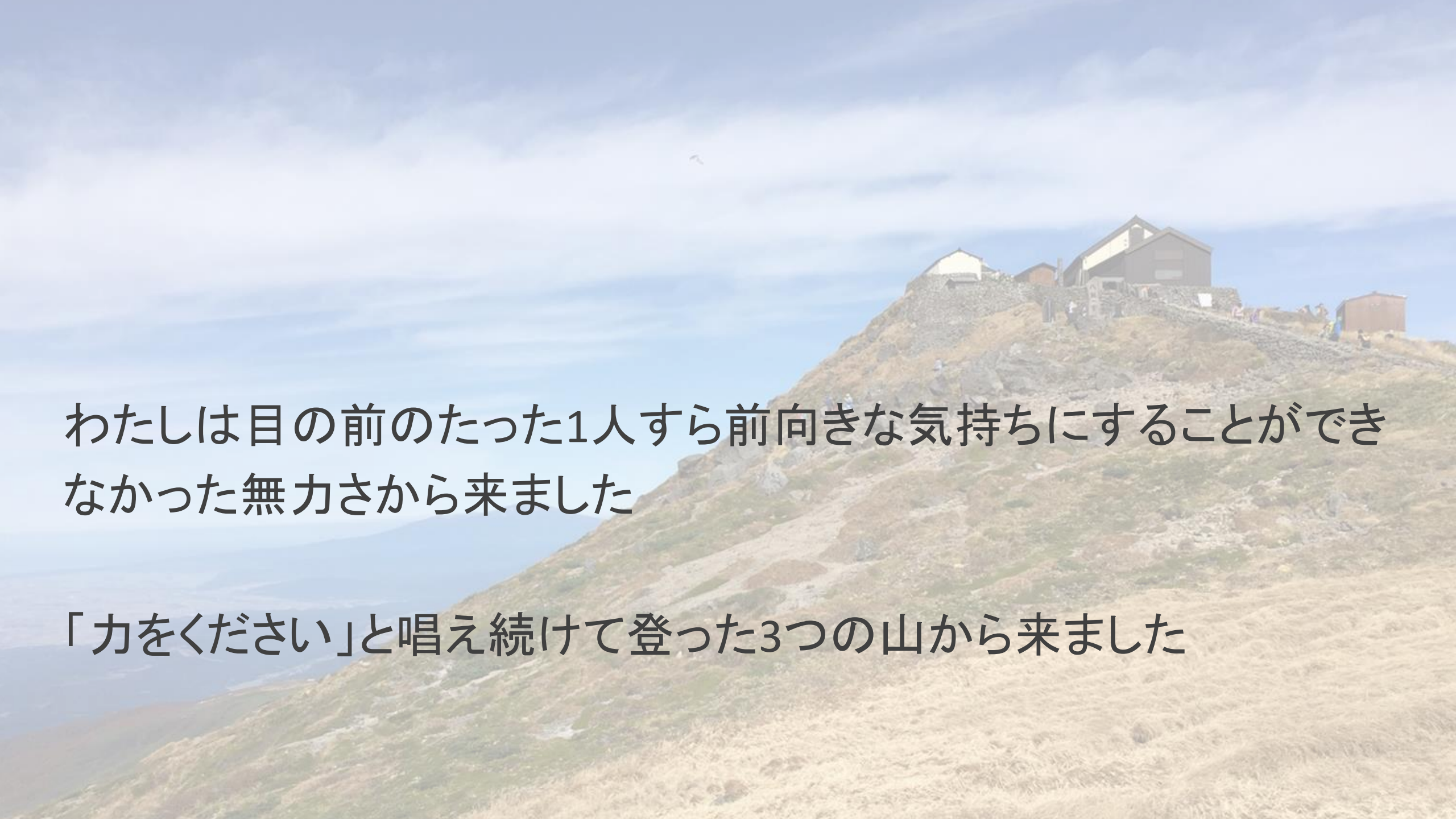
わたしは乾いた木の甲高い音と少し湿った土の香りから来ました



わたしはサンフランシスコの青空の下、くだらないことで笑ったり、
うまくいかなくて泣いたりした日々から来ました

わたしは父や母のように暖かく受け止めてくれた人たちから来ました



A photograph of a mountain peak with a small building on top. The sky is blue with white clouds. The mountain slope is covered in dry grass and rocks. The text is overlaid on the left side of the image.

わたしは目の前のたった1人すら前向きな気持ちにすることができ
なかった無力さから来ました

「力をください」と唱え続けて登った3つの山から来ました



わたしは娘がケラケラ笑い、犬が飛び跳ねるリビングから来ました

ぜんぶが今につながっているから
嬉しかった記憶も、苦しかった日々も
ぼくの大切な一部です



相内 洋輔(33歳) 自己紹介



- 1985年 仙台市で誕生。祖父と父が花市場を経営していたので
幼少期から花に囲まれ過ごす。最初の夢はお花屋さん
- 2004年 仙台第一高等学校卒業
本命の東京農業大学 造園学科には合格できず、
宮城大学 事業構想学部に入學
- 2008年 宮城大学を卒業し株式会社リクルートへ入社
- 2013年 公益財団法人東日本大震災復興支援財団へ入社
東北の未来を担う若者を育成する事業を複数担当
- 2015年 ソフトバンク株式会社へ出向(上記財団と兼務)
TOMODACHIソフトバンク・リーダーシップ・プログラムを担当
- 2016年～ コミュニケーショントレーニングネットワーク®に通い
コーチングとコミュニケーションを専門的に学ぶ
- 2018年～ 仙台へ戻りワークショップデザイナーとして活動スタート

これまでの歩み



偏差値68 宮城県2位



就職したい会社TOP10常連



就職したい会社TOP10常連

プロフィールを見て
どんなことを感じました？

硬式野球部

秋からベンチ入り

新人戦県ベスト4

勉強は学年の中間くらい



高校2年生

事件が起きました



借金の一括返済要求

総額
5億円



返せる当てがない

一族での醜い罵りあい

豹変していく大人たち

怒声ばかりが響く家

先の見えない毎日 . . .

努力の放棄



前後の変化

分かりやすく墮落していく日々

	高校1年生	高校2年生
授業	なんとか理解できた	マンガを読むか携帯でメール
テスト	ぎりぎり赤点回避 150位 / 300人	0～30点 下から3位
全国偏差値	60台	38
部活	甲子園目指して奮闘	幽霊部員化
学校生活	友達と和気あいあい	一人で過ごす
放課後	部活の練習	歓楽街をふらふら

出口が見えず辛い日々



『あなたは今、自分の人生を、
自分で終わらせようとしています』

それから

猛勉強の始まり！

変化していく周囲



**環境は変えられないけれど
自分が動けば世界が変わる**

ユースアクション東北



担い手育成

地域と向き合う若 者の活動を支援



活動資金最大30万円！

活動をサポートする大人の紹介

助成事業

地域の復興や活性化を志す
若者が自主的に企画運営
する活動の費用を助成



伴走者増加事業

若者の活動を支える大人
(伴走者)の増加と知見共有





北海道奥尻の教訓

実施背景



復旧・復興事業

764億

義援金

190億

インフラ

生活再建

※2016年7月13日 朝日新聞「奥尻、復興の教訓 地震・津波から20年で追悼式」
<http://www.asahi.com/special/news/articles/TKY201307120390.html>

産業や人材育成への投資なし



現在（20年後）

財政
破たん

産業
未発達

人材
不足

地域での活動は学びの宝庫！

①プロジェクトを作る

自分の興味や地域の
課題に根差した
プロジェクトの作成



②初めの一步を踏み出す

作ったプロジェクトの
実現に向けて実際に
社会の中で行動する



③計画の再考

実施した行動に基づき
振り返りとブラッシュアップ
を行い次のアクションへ



助成実績(2017年7月時点)

助成チーム総数

21団体

助成総額

330万円



若者の活動例



宮古を活性化させるのは若者だ！
という気持ちを多くの若者が持てるよう、
高校生が伝統芸能やパフォーマンスを披露
高校生スタッフ50名が**300人の観客**を集客



気仙沼を訪れる観光客が増加するよう、
参加者が市内をゲーム感覚で散策する
「ロールプレイング気仙沼」を開催！
総勢30~40人の観光客を案内

その他活動例

	活動地	活動内容
1	岩手	高校生どうしのピアカウンセリングを目指した勉強会の開催
2	岩手	地域の大人と高校生がキャリアについて語り合う交流イベント
3	岩手	桜を使った伝統的な染め物商品の開発と販売
4	岩手	動物園でのスタンプラリーの開催
5	岩手	地元農家の食材を使った料理イベントの開催
6	宮城	輸出先を失ったホヤの消費を喚起するための新商品開発と販売
7	宮城	石巻に魔法をかける！を合言葉にしたファッションショーの開催
8	福島	スポーツ要素を盛り込んだゴミ拾い大会の実施
9	福島	地域の小学生と運動を通じて交流するイベントの実施
10	福島	会津地方の魅力をまとめたフリーペーパーの作成と発刊

伴走者

現在61名が名簿に登録 スポットでの協力者を合わせ70名程度が参画



氏名: 江川 沙織 活動地: 仙台市
所属先: 認定NPO法人底上げ、NPO法人wiz
連絡先:
メールアドレス:
FBアカウント: 江川 沙織
連絡が付きやすい日、時間: いつでもどうぞ!
得意なこと: 仙台のイベント会場、ワークショップ

プロフィール・活動に協力できそうな経験や強み

宮城県仙台市出身。高校生の頃、こんなつまらない町イヤだ!と横浜の大学に進学。大学では、テコンドーをやったり、休学して一人旅に出たりしているうちに、NPOとお金に興味を持ち、銀行に就職しました。イヤだと飛び出したはずなのに、地元に戻りたくなってしまい、震災後にUターン。今では、地元の魅力的な人やその活動に触れて、こんな面白い場所なかなか無いな~と思っています。仕事で、岩手、宮城、福島の前を支援する為色々な場所に出向いていたので、様々な活動や、活動している人についての情報で協力できるかも!

ひとこと: 何がしたいとか、何に困っているとか、明確じゃなくても大丈夫。とりあえずお茶でも飲んで話しましょ。希望があれば遠征しますよー!



氏名: 早川 輝 活動地: 岩手県宮古市
所属先: NPO法人みやっこベース
連絡先:
メールアドレス:
FBアカウント: 早川 輝
連絡が付きやすい日、時間: いつでも
得意なこと: 観光関係、イベント運営、写真撮影

プロフィール・活動に協力できそうな経験や強み

福岡県北九州市出身。大学では情報工学を専攻。三年間大学祭実行委員会に所属し、イベント運営のノウハウを学びました。卒業後、海外生活の夢を追ってオーストラリアで二年間過ごしました。現地で働いて車を買って、三ヶ月かけてオーストラリア一周旅行をしたのが人生最大の思い出です。

東日本大震災後、個人ボランティアとして宮古市に来ました。ガレキ撤去などの力仕事のほか、子どもの遊び場作りや学習支援、復興支援イベントの企画運営などを行ってきました。現在は観光関係の仕事に興味があり、若手が集まる研究会に参加したり資格取得の勉強をしたりして学んでいます。

ひとこと: 年齢関係なく一緒に宮古、岩手、東北を盛り上げていく仲間が増えれば嬉しいです。サポート態勢を整えながら、みんなのアクション・チャレンジに期待しています!

30企業 & 15NPO

伴走者が大切にしている 3つのポイント！

1つめのポイント

相手を『承認』する

相手を承認するとは

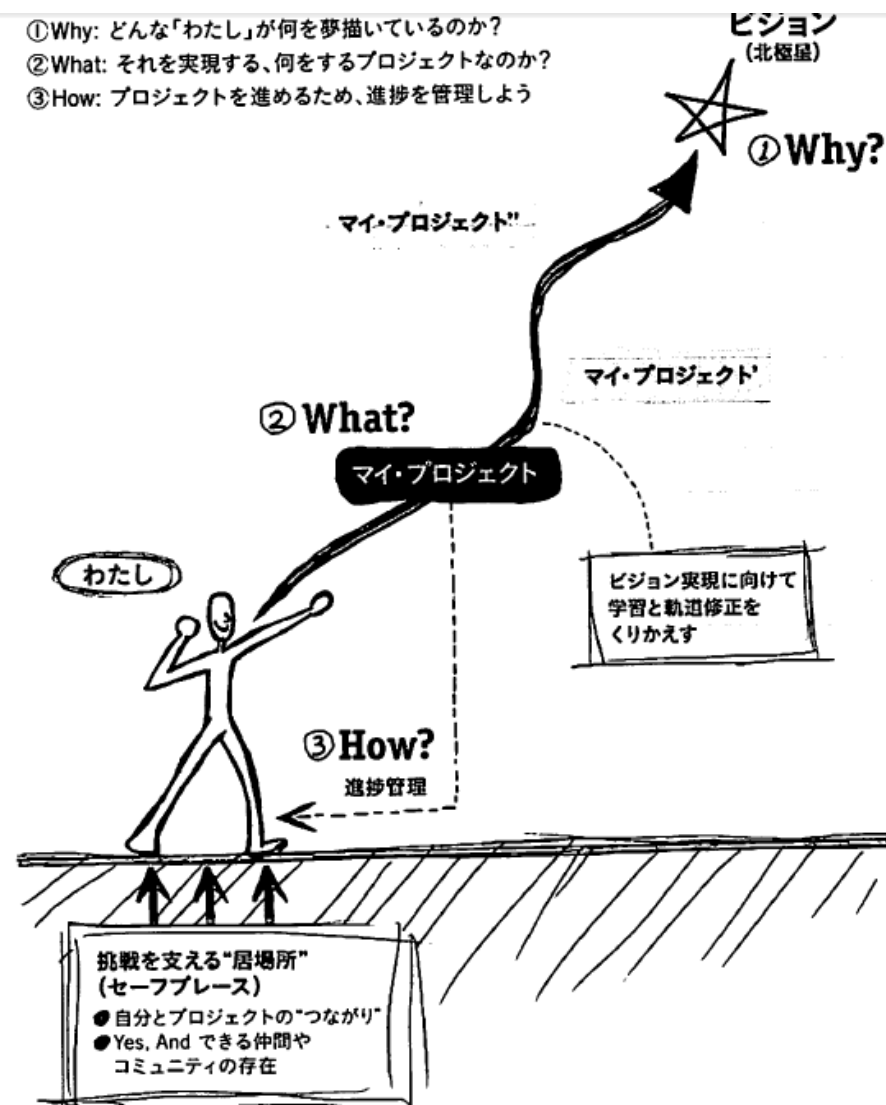


話し終えるまでじっくり待つ

ただ受け取る

相手を変えようとするしない

プロジェクト作りは 自己開示 から始まる



『社会起業家になりたいと思ったら読む本』より引用

評価や比較で測るのではなく
手応えや納得感を一緒に探す





『承認』は『前進』を生む

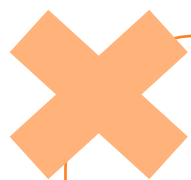


エーリッヒ・フロム

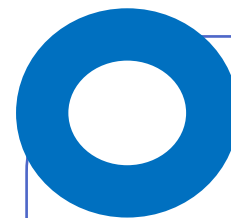
***Education is
helping the child
realize his
potentialities.***

2つめのポイント

相手の『主体性』を引き出す



プロジェクト
の実現



プロジェクト
を通じた
豊かな学び

プロジェクトが進むフロー

4. 更に行動する

3. 計画を修正する

2. 実際に行動する

1. 計画を立てる

行動を起こし続けるサイクル

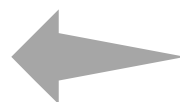
①自発的な意欲



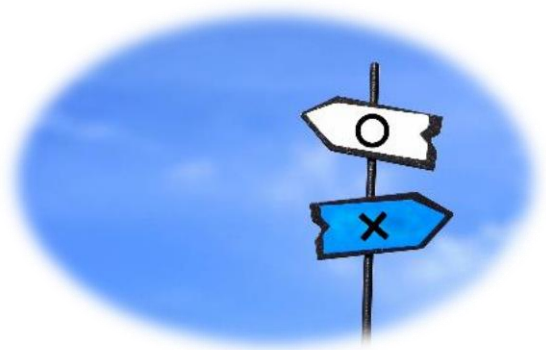
②作戦の検討



③新しい行動



④効果検証



**自発的な意欲が
全ての始まり！**

質問やアドバイスはする！

指導や指示はしない！

啐 啄 同 時

3つめのポイント

大人も共に学ぶ！

変化の連鎖

若者の変化



地域の変化



伴走者の変化



A close-up photograph of two hands holding each other, with a blurred green background. The hands are positioned in the center of the frame, with one hand slightly above the other. The background is a soft-focus green field or garden. The lighting is warm and natural, suggesting an outdoor setting during the day. The overall mood is intimate and hopeful.

若者との関係

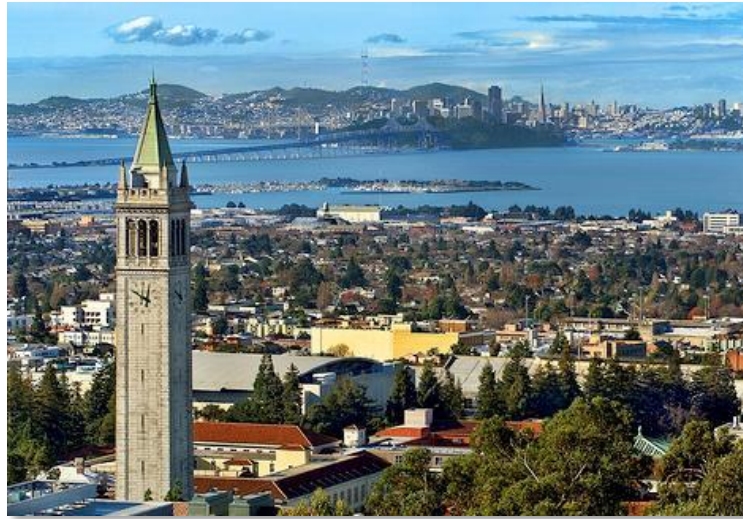
共に未来を創るパートナー

高校生の活動を促進する取組



TOMODACHI ソフトバンク リーダーシップ・プログラム

100人の高校生がカリフォルニア大学バークレー校へ3週間の短期留学



進学、就職、そして実社会への準備



健康的、持続的、公正で活気ある地域社会に向けて



東北6県の高校生が対象

NPO **カマリバ**



A promotional poster for the "My Project START UP CAMP 2018" event. The background is a solid reddish-orange. At the top center is a large white "X" symbol. To its right is a white pennant flag with the year "2018" in red. Below the "X" is the text "全国高校生" (All National High School Students) in white. To the left of this text is a white speech bubble containing the Japanese text "マイプロ" (My Project). Below the speech bubble and the "X" is the text "My Project" in a white script font. The main title "START UP CAMP" is written in large, bold, white capital letters, with "CAMP" having a hatched texture. In the bottom left corner, there is a white diagonal banner with the text "高校生だからできることがある。" (Because you are a high school student, you can do something). At the bottom center, the text "ここから、君のマイプロが動き出す!" (From here, your My Project starts moving!) is written in white.

X

2018

全国高校生

マイプロ

My Project

START UP CAMP

高校生だからできることがある。

ここから、君のマイプロが動き出す!

2018年 東北カイギの構成

①過去に潜る

過去の大切な出来事や
心に残っている物を
五感に訴求して感じる



②現状認識と違和感

自分が世界をどう認識し
何に違和感があるか探る



③未来を味わう

夢や理想の社会を描き、
それが叶ったらどんな感情
が湧き上がるか体感する



Where I'm From ポエム



8つのテーマから感じたことを
ポストイットに記入

日本 家族

学校 友達

地元 過去

自分 未来

って○○○だ

人生でやりたいこと 50のリスト！

自分のため
世の中のため
(誰かのため)



青森の参加者の活動

あおもりリーディングプラットホーム(青森公立大学、あおもり立志院の会、青森県)
平成30年度民間主導型人材育成プロジェクト推進事業

高校生と共に学ぶ
世界遺産・縄文でビジネス!
子どもワークショップ

**参加者募集!!
無料**



青森市の三内丸山遺跡や小牧野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、本年7月に文化庁により国内の世界遺産の推薦候補として選定されました。このまま順調に進むと、2年後(2020年夏ごろ)のユネスコ世界遺産委員会で登録が決まります。このため、縄文遺跡が数多くある青森県には大きなビジネスチャンスが生まれるかも知れません。今回のワークショップでは、「世界遺産・縄文」をビジネスにどう活かすかを、2つのテーマについて子ども達がチャレンジし、ふるさとのために力を尽くすことのできる人材を育てます。

ワークショップテーマ①
縄文メニューを考案しよう!
お店の看板となる縄文オリジナルメニューを考え、実際に作ります

ワークショップテーマ②
縄文グッズを開発しよう!
開発アイデアを提案し、実現可能な場合には試験販売もします

会場 縄文の学び舎・小牧野館
青森市野沢字沢部108番地3

応募締切り 11/30 (金)

プログラムは裏面参照

【お問合せ】 縄文の学び舎・小牧野館 TEL 017-757-8665

主催「世界遺産登録を目指す縄文遺跡群 学芸員なりきりツアー」実行委員会

※「学芸員なりきりツアー」は、2018年6月30日・7月1日に青森中央高等学校青少年赤十字部を中心に組織した実行委員会により実施しました。今回は、その第2弾であり、青森中央高等学校の生徒のほか東北地方の高校生が指導スタッフとしてワークショップを盛り上げます!

共催 一般社団法人 小牧野遺跡保存活用協議会



学芸員なりきりツアー 集合写真

プログラム

日程・内容【全3回】	
第1回	2018.12/23 (日) 9:30~16:30 ・縄文時代の生活・文化を学ぶ(展示見学) ・ワークショップ「縄文土器づくり」(写真参照) 講師：一般社団法人小牧野遺跡保存活用協議会 小牧野遺跡を活動拠点として、遺跡や展示施設「縄文の学び舎・小牧野館」のカイド・体験学習の指導のほか、ユニークな企画展やイベント等も開催。  縄文土器 ・ワークショップ「どうすれば縄文遺跡は盛り上がる?」 講師：相内洋輔氏 ワークショップデザイナー (公益財団法人東日本大震災復興支援財団 シニアアドバイザー) 宮城大学を卒業後、2008年株式会社リクルートに入社。震災を機に公益財団法人東日本大震災復興財団に転職。2018年5月より地元仙台でフリーランスとして活動。 
第2回	2019.1/13 (日) 9:30~16:30 ・ワークショップ「安くておいしい縄文メニューを考えよう!」 講師：柿崎和江氏 あおもり食命人 青森地区代表 同ネットワークの活動のほか、青森食育サポーターとして、食の大切さを伝えるため、健康的な食生活を送るメニューの提案をするともに、青森市の親子対象に年7回の調理実習を実施。  ・ワークショップ「売れる縄文グッズを考えよう!」 講師：山口志麻氏 雑貨店 三ノ月舎 店主 大手雑貨店に勤め、全国の店舗を回った後、独立。青森の工芸品、古道具、雑貨などを扱う「三ノ月舎」を経営。夏の工芸学校や時の市など様々なイベントを企画し活動中。 
第3回	2019.1/14 (月・祝) 9:30~16:30 ・ワークショップ「縄文メニューを作り・食べてみよう!」 ・ワークショップ「縄文グッズ開発プレゼンテーション」 アドバイザー：あおもり立志院の会 青森県内のリーダー育成事業「あおもり立志院塾」の卒業生によって設立。「あおもり」のよい明日へと繋げるために、青森県内各地で活動。  ※保護者方は、午後から参加できます。

応募方法

氏名(ふりがな)・学校名・学年・住所・電話番号について以下の方法でお知らせください。

【電 話】: 017-757-8665
【FAX】: 017-757-8670
【ハガキ】: 〒030-0152
青森市野沢字沢部108番地3
縄文の学び舎・小牧野館

【Eメール】:
info@komakinosite.jp
※件名を「子どもワークショップ」にして下さい。
※決定通知は12月上旬にお知らせします。

応募用紙

FAXの場合は、そのまま送信
ハガキの場合は、切り取り後、貼付して郵送

ふりがな 氏名	
学校名	
学年	※小学5年生~中学3年生まで
年	
住所 〒	
電話番号 (携帯・スマホ)	

【持ち物】筆記道具(ペン・ノート類)、軽食、飲み物、エプロン(第3回のみ)

【その他】本イベントにおいて、参加者が発表したアイデア(コンセプト及びノウハウ等を含みます)や成果物については、参加者はすべての権利を放棄するものとします。

学校との連携

ご静聴いただきありがとうございました。